

県民参加 NPO等協働 通信

このコーナーでは、県民参加の活動事例や NPO 等との協働事例を紹介します。

～中間支援 NPO と県土整備部との 懇談会を開催！～

県土整備部では、平成 15 年 3 月に「県民参加のガイドライン」、平成 16 年 3 月に「県民参加の推進プログラム」を策定し、県土づくりの主役は県民であるとの基本的な考えの下に、県民一人ひとりの生活者の視点とそれぞれの地域の視点に立った施策を推進するほか、地域住民の主体的な参加や創意工夫を生かした地域づくりを進めています。昨年度は、県民参加の推進プログラムの「人材育成」、「地域ネットワーク形成の支援」及び「県民協働の実践」の推進を図るため、県内 4 地域において「地域懇談会」を開催したほか、『第 1 回県民参加・NPO 協働フォーラム』を開催しました。NPO と行政を取り巻く最新の情勢や県内の先進事例に取組む方々の思いや抱えている課題等の紹介が熱く紹介され、盛会のうちに終えたところであります。

今年度は、NPO の運営又は活動に関する連絡や助言・支援等の活動を行っている中間支援 NPO の皆様と一緒に、県土整備部が取組んできた協働事業の成果や課題などについて検証しながら、新たな協働事業の創出に向けた意見交換をするために懇談会を開催することといたしました。

懇談会の様子を一部ご紹介いたします。



【懇談会の内容】

高井
NPO サポートルーム

(省略)

協働って、やればやるほど失敗するものなのですよ。自分たちの失敗は許されないという意識もありますが、協働は未知数の部分がある。NPO 側が仕事をいただいてもスキルや経験がまだまだ乏しい面があります。失敗することもあるということを認識してほしいですね。そういう意味では単年度主義ではなかなか成果が出せない面があります。これについては前向きな検証が必要かと思えます。こんないいものがでてきたよといっても、景観の場合はすぐに成果は出ませんよね。2年、3年かかるものもありますし、建設的に注視しながら「予算がつかない協働」をやっていたらと思います。

久木田
NPO フォーラム 21

行政との協働も色々ありますが、その一つに意識が変わってほしい。形だけの協

■中間支援 NPO と県土整備部との懇談会

日 時：7 月 20 日 (水) 15 時 30 分～

場 所：岩手県公会堂 21 号会議室

出席者：県土整備部長、県土整備企画室長、技監、総括課長、中間支援 NPO

■懇談会に出席された NPO の皆さん

@リアス NPO サポートセンター	山崎専務理事
いわて NPO サポートルーム	高井室長
いわて NPO フォーラム 21	久木田代表理事
いわて NPO-NE T サポート	高橋代表理事
カシオペア連邦地域づくりサポーターズ	浪岡代表理事
NPO 花巻市民活動支援センター	甲山理事長
やませデザイン会議	長坂副議長
レスパイトハウスハンズ	小野会長

大矢
まちづくり担当課長

高井
NPO サポートルーム

渡邊企画担当課長
県土整備企画室

高井室長
NPO サポートルーム
高橋代表理事
NPO-NET

高井室長
NPO サポートルーム
高橋代表理事
NPO-NET

高井室長
NPO サポートルーム

高橋代表理事
NPO-NET

働や丸投げ協働については、意識が変わることは期待できません。一緒に汗を流す中で信頼ができます。課題も一緒に見えてきます。双方が汗をかくことが大事なんです。仕事も増えるから行政は大変でしょうけど・・・

私がうれしかったことは、自転車への思いを通じて知り合いになれたし、行政の枠を離れて世界が広がったと思います。使い勝手のよい人種といいますか、役に立つ人、所謂「役人」を再認識できてよかったです。

4月からの悩みは、自分のお金だという思いで仕事をする中で、有効に使えるようにしていきたいということです。なかなか形に残るものでないので、その成果・効果を伝えにくい面があります。100万円使った成果を示しなさいといわれても、示しにくいですね。そういった悩ましさがあります。

それでは、今後取組みたい事項について、今後の方向性を含め事務局からお願いします。

資料1の「今後の方向性及び具体的な推進事項」ですが、まず1つ目は地域懇談会と全県フォーラムを今年度もやりたいと思っています。地域懇談会については、ネットワークづくりということで、各地域でNPOの育ち方や取り組みにも差がありますので各地域で協働について考えて欲しいということで開催するものです。

2つ目は、本日開催の中間支援NPOとの懇談会の開催です。

3つ目は広報誌の発行ですが、ホームページにも掲載してありますので見てほしいと思います。県土整備部の取り組みを知っていただく機会が少ないので、引き続きやっていくことにしています。

4つ目が協働システムの検討についてですが、①は、事業の種類・規模別、そして段階ごとに協働の手法を整理しておかなければならないと考えています。②は、NPOの評価と役割ですが、随意契約や委託契約などの際、NPOの能力を評価するのは行政側が一方的に考えるのではなく、一緒に考えなければと思います。行政サイドの評価も必要ですね。③は、市町村とのかかわりについての問題意識です。基礎的自治体である市町村がこれからは中心ですし、地域づくりの主体である市町村への支援が必要だと思います。④の人材育成はNPOも県もファシリテーター能力が求められると思います。組織をまとめるリーダーとしての能力も含まれますが、ファシリテーターの養成が必要だと思います。⑤は、提案の仕方や窓口が必要と思っています。

質問はないですか。具体的な提案等があればお願いします。

人材の育成にもつながりますが、ファシリテーターに力をいれていかないとと思っています。養成講座を5年前から開催しています。今年は仙台宮城の加藤さんと呼んで開催しましたが、それでは人数が追いつかないので、各自治会におじゃまして養成のためのインストラクターを自分たちが中心となってやっています。北上地方振興局管内でやっているのを全県でできたらと思います。

もう一つは、県土整備部関連では、地域再生の視点ですが、人口減少社会の中で都市の形をどうするのか、コンパクトシティとも言われますが、ハード面から持続可能な社会をどう築いていくか、NPOも巻き込んで議論してはどうかと思います。

確認ですが、養成講座のお金は？

振興局からの委託でやっています。30人を要請する予定で、各地域に3人がお邪魔してファシリテーターをやっています。

人材育成の提案でしたが、できればお金のかからない協働で実績をつくっていったらと思います。これを県土整備部との協働で実施できないか。場所と人集めは県がやり、NPOが連携して講師の派遣を行う。県がどのくらい支援するかによって全体の規模は変わりますが・・・

今年インストラクションのマニュアルをつくる予定にしており、これなんかも使えると思います。

小野会長
レスバイトハウス

橋本部長
県土整備部長

久木田代表理事
NPO フォーラム 21

清水室長
県土整備企画室

谷地 敏 企画担当課長
地域企画室

清水室長
県土整備企画室長
甲山理事長
花巻市民活動

大矢
まちづくり担当課長

高井室長
NPO サポートルーム

谷地 敏 企画担当課長
地域企画室

高井室長
NPO サポートルーム

長坂副議長
やませデザイン会議

高井室長
NPO サポートルーム

県土整備部の事業が浸透していないのではないのでしょうか。せっかくいいことやっているのに浸透していないよという声があります。

確かに、連携がうまくいっていない部分もあると思いますが、話がちょっと変わるかもしれませんが、うちの部には団塊の世代と言われる職員が150人います。これらの職員は、今後NPOの活動に参加する機会が多くなるのではと思っています。人によっては使い勝手のいい人もいますので、地域との接着剤になると思います。変化がでるのではと期待しています。

人材育成について呼び方が色々ありますが、いずれにしろ住民主導、NPO主導のなかで、若い人が将来やってみたいという気持ちを起こさせるには社会的にも職能として認知されることが必要です。給料もきちんと払えないと育ちません。

そこで、ファシリテーターの認証制度みたいなのができないかと思います。そうならば、専門学校にもコースができるし、何がしかのインセンティブを与えることができると思います。

行政がNPOと協働を進める上で、今のような人材育成の話は県のメリットにもなるから、県として人材育成の面で予算手当てをすべきではないかと思っています。

県では、各部で色々な協働に取り組んでいますが、人材育成の話については、各部と協力して進めていく必要があると思っています。

地域振興部がのろしをあげれば、各部はついてくると思いますよ。

予算見積について、委託と補助は明確にすべきだと思います。

委託の場合は人件費が認められません。自主的な活動に補助するのではなく、県が委託する場合は、それなりの人材や管理コストが必要になります。行政と同レベルのサービス水準が求められる訳ですから、人件費が認められないとボランティアや高齢の人しかできなくなります。ぜひ、委託事業で人件費をみとめて欲しいです。補助事業については何々に補助するということをお互いに話し合っていないとNPOが育たないと思います。

何かしらのルールがないと、申請されたものをそのまま受けることになります。その点は課題だと思います。人件費の算出とかは、NPOによってまちまちで、県民の合意形成がとれるのか疑問です。NPOの評価にもつながるし、協働の仕組みにもつながる課題だと思います。

発注する方も、この見積が適切なのかというのが悩みの種かと思いますが、8階の方ではNPOの評価についてどう考えていますか？

現時点では考えていません。これからです。

NPOの自己評価について、客観的な基準をつかって業者のランク付けをやるのは現時点では難しいということです。NPOが自主基準を定めて、そういうのは宿題として抱えるべきと思いますが、いかがでしょうか？

市町村との連携について、地域振興部では市町村のNPO担当者の研修会をやっていますが、県土整備部版の研修会をやってみたいと思います。振興局毎に市町村土木部職員を対象に協働の勉強会や事例研修会をやることで協働に対する格差を埋めていくのに有効だと思います。

NPOも努力しなければなりません。実績報告を受ける際、市町村との関係はどうだったかを書くようにするといいのではないのでしょうか。

人材育成については、アカデミーをつくりながらそこで学んでいく。地元を離れるわけにはいけないので、働きながらやる仕掛け作りが必要だと思います。

一昨年に第1回の県土整備部との懇談会をりましたが、今日の会議を通じて、NPO側も大分成長したなと思いました。今後とも地域づくりのパートナーシップを大切にしていきたいと思います。本日はありがとうございました。